

# 「世界の平和願ひ、国民に寄り添ふ」

天皇陛下が即位を宣言する「即位礼正殿の儀」が22日、皇居・宮殿の正殿・松の間で行われた。天皇陛下は天皇の代替わりを象徴する調度品「高御座」に立ち、「国民に寄り添ひながら、憲法のとおり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たす」と誓った。

## 正殿の儀 2000人参列

儀式前に雨風が強まり、宮内庁などは、中庭に並ぶ予定だった装束姿の職員の人数を減らし、宮殿内に配置した。同日午後1時過ぎ、和楽器の鉦による合図で参列者が起立すると、高御座、御帳台の幕がそれぞれ開かれ、天皇、皇后両陛下が姿を見せた。陛下は「黄櫨染御袍」と呼ばれる束帯姿。

皇后さまは髪を大垂髪に結び、古式ゆかしい十二単に身を包んだ。高御座は奈良時代から即位儀式に用いられてきたとされ、現在のものは大正時代に作られた。陛下は憲法と皇室典範特例法の定めにより即位したことを宣言し、「国民の幸せと世界の平和」を常に願う、とも述べた。その後、安倍晋三首相が祝いの言葉

「寿詞」を読み上げ、万歳を三唱した。即位礼正殿の儀は、一連の皇位継承儀式のうち、最も重要な儀式の一つ。松の間には、皇嗣の秋篠宮さま、皇位継承順位第3位の常陸宮さまに加え、秋篠宮妃紀子さまをはじめとする女性皇族9人が十二単に身を包んで立ち並んだ。参列者は、三権の長や全国

問、英国のチャールズ皇太子らが儀式を見守った。退位した上皇さまと上皇后美智子さまは一切の公的活動から退いており、この日も出席しなかった。

を招いた祝宴「饗宴の儀」が行われた。この日午後には予定されていた両陛下の祝賀パレードは、台風被害に配慮し、11月10日に延期された。

(中田殉子、長谷文)



①「即位礼正殿の儀」でおことばを述べた天皇陛下  
②「即位礼正殿の儀」を終え、退出する皇后さま  
いずれも皇居・宮殿、代表撮影

# 天皇陛下 即位を宣言

## 天皇陛下のおことば

さきに、日本国憲法及び皇室典範特例法の定めるところにより皇位を継承いたしました。ここに「即位礼正殿の儀」を行い、即位を内外に宣明いたします。上皇陛下が三十年以上にわたる御在位の間、常に国民の幸せと世界の平和を願われ、いかなる時も国民と苦楽を共にされながら、その御心を御自身のお姿でお示しなされたことに、改めて深く恩いを致し、ここに、国民の幸せと世界の平和を常に願ひ、国民に寄り添ひながら、憲法のとおり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います。国民の睿智とたゆみない努力によって、我が国が一層の発展を遂げ、国際社会の友好と平和、人類の福祉と繁栄に寄与することを切に希望いたします。

## 解説 象徴とは考える契機に

天皇陛下はおことばで、上皇さまの天皇としての姿に触れたうえで「象徴としてのつとめを果たす」と表明した。上皇さまが各地をめぐり、国民の幸せと世界の平和は深く関連している、この実感が「象徴を陛下も受け継いでいく、という改めての意思表明」と言えるだろう。おことばには、即位した5月の儀式で言及した「世界の平和」という文言が再び盛り込まれた。陛下は水害や干ばつなどの「水問題」の研究を

続けている。皇室の歴史に詳しい所功・京都産業大名誉教授は「地球規模の問題に関心をもち続ける陛下にとって、国民の幸せと世界の平和は深く関連している、この実感があるのだろう」とみる。上皇さまが象徴のあり方を問うた「お気持ち表明」から3年2カ月余。皇位継承はつつがなく行われたが、象徴とはどうあるべきか、議論が尽くされたとは言えない。晴れやかな場で即位を宣言した

陛下も来年で60歳の選齢を迎える。皇族方の減少も進み、平成の「正殿の儀」で6人いた成人の男性皇族は今回、秋篠宮さまと、上皇さまの弟常陸宮さまの2人だけだ。未婚の女性皇族も結婚で皇室を離れる可能性もある。主権者として、どんな天皇像を望むのか。どのように皇統をつないでいくのか。いまいちど考える契機としたい。

(中田殉子)